



平成 28 年度 S R (サイエンスリサーチ) 活動スタート

諏訪清陵高等学校は平成 14(2002)年に SSH 事業が発足した当初の全国指定校 26 校の一つで、その後、平成 17(2005)年の再指定を経て、平成 22 (2010) 年度再々指定 (5 年間) を受け、昨年度まで 14 年間にわたり「先進的な理数系教育を実施することにより、将来の国際的な科学技術関係人材を育成すること」を目的として、「観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習の手法、創造性・独創性を高める指導方法の研究開発、国際性を育てるための海外科学セミナー(アラスカ研修)」などの取組みを大学、企業等と連携しながら実施してきました。

本年度からは、第 3 期 14 年間の SSH 事業の課題と成果を検討したうえ、その財産を今後の諏訪清陵高等学校及び附属中学校の教育課程に生かせるように取組みます。中・高・大・企業連携、教育課程、探究的取組、科学系クラブの支援、そして教育評価の手法等を本校の教育に生かしていきます。



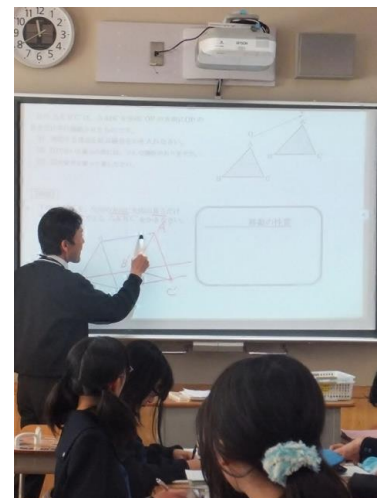
企業と連携した講座で最先端の科学技術を体験 セイコーエプソン株式会社による「分析化学体験講座」

中高全教室に電子黒板、書画カメラ等 ICT 機器を配置

また、ICT 機器を活用した授業をより日常的に実施しやすいようにすべての教室に単焦点型プロジェクター (電子黒板機能付き)、書写カメラを同窓会等の支援を受けて設置しました。

教諭一人ひとりが創意工夫を生かした ICT 機器を活用した授業がすでに日常的に行われています。

数学科では、電子黒板にグラフを描写させています。地歴公民科や理科では、資料集の資料を投影したり、資料動画を上映することに活用しています。インターネット上の資料を直接投影して活用することも容易になっています。芸術科では、作品をタブレットや、スマートフォンに取り込み、それを直ちに電子黒板に投影し、生徒集団で作品を共有して、批評・助言しながら、作品の完成に向けて取り組ませる授業も行われています。



中学校教室での電子黒板活用授業

SSH 事業の財産の継承と発展

SSH 事業で研究開発した「SSH 探究」の内容は 1, 2 学年の教科「情報」で生かされています。

「課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な学び」を、アクティブラーニング形式で学習しており、1 学年では、課題探究におけるテーマの発見と設定、探究、方法そしてプレゼンテーションの手法の学習等を、パソコン、タブレットを駆使しながらインターネットや図書館の資料を活用して生徒同士の協働的作業を通して学んでいます。2 学年では、さらに文理の枠を超えた一人一研究を実施して、課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な学びを深めています。



「情報」では ICT 機器を活用したアクティブラーニングを実施